

平成 27 年度
鴨川市健康福祉推進計画の策定に
係る関係団体アンケート
調査結果報告書
【概要版】

平成 27 年 10 月
鴨 川 市

目 次

1. アンケート調査の概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 実施内容.....	1
(3) 回収結果.....	1
(4) 集計等に関する留意事項.....	1
2. 調査結果	2
(1) 回答者の属性.....	2
(2) 団体の概要について.....	3
(3) 貴団体の活動の状況について.....	9
(4) 健康づくりについて.....	17
(5) 団体から見た地域の状況について.....	18
(6) 自由記述.....	22
資料：関係係団体アンケート調査票	25

1. アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

- 平成 28 年度から平成 32 年度までを計画期間とする第 2 期鴨川市健康福祉推進計画を策定するに当たり、第 1 期計画策定時に実施したアンケート調査の対象とした健康福祉関係団体等に対しアンケート調査を実施し、この間における意識の変容を把握するとともに、新たな課題の抽出をはじめ、広く意見を聴取し、当該計画策定のための基礎資料とすることを目的としています。

なお、計画期間を同じくする地域福祉活動計画を策定するため、鴨川市社会福祉協議会においても、アンケート調査を予定しており、その対象団体もほぼ同様であったため、調査票の配付及び回収を共同で実施しました。

分析にあたっては、平成 22 年に実施した団体アンケート調査の設問のうち、今回の調査と同様の設問については、経年比較を行うため、その結果を併記しています。(回答者・団体属性に関する設問を除く。)

(2) 実施内容

- 調査地域：市内全域
- 調査対象：健康福祉関係団体 139 団体(115 名)
(ボランティア団体、NPO、学童クラブ、サロン、地区社協等)
- 調査方法：持参若しくは郵送配付し、郵送にて回収
- 調査期間：平成 27 年 9 月 3 日～30 日

(3) 回収結果

- 配布数：139 票 (前回調査：116 票)
 - 回収数：91 票 (前回調査：61 票)
 - 回収率：65.5% (前回調査：52.6%)
- ※前回調査は平成 22 年 9 月 1 日～9 月 30 日に実施。

(4) 集計等に関する留意事項

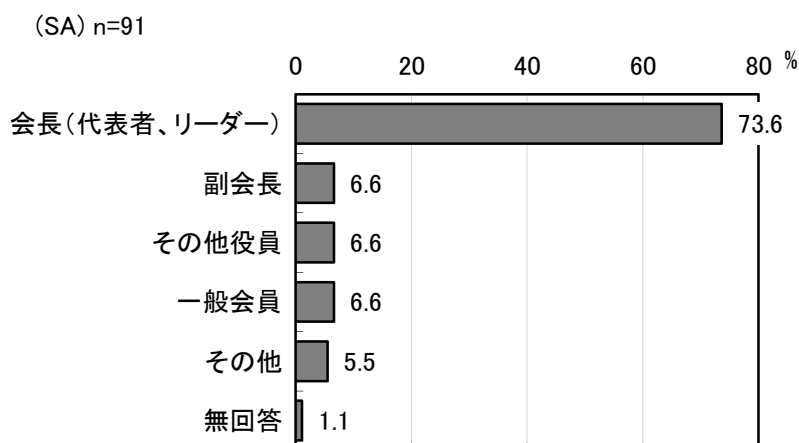
- グラフ及び表に表記されている記号のうち、(n) は当該設問のサンプル数 (number of case)、(SA) は単数解答の設問 (single answer)、(MA) は複数回答の設問 (multiple answer) を表しています。
- 設問に指定した回答数を超えて回答があった場合は、無回答扱いとしました。
- 集計結果は、比率を全て百分率 (%) で表し、小数点第 2 位以下を四捨五入して表示しています。そのため、比率の合計が 100.0% とならない場合があります。
- 集計結果の表やグラフでは、スペースの都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

問1 あなたの役職(立場)についておたずねします。(○は1つだけ)

- 回答者の役職(立場)については、「会長(代表者、リーダー)」が67件、73.6%で最も多く、次いで「副会長」、「その他役員」及び「一般会員」がそれぞれ6件、6.6%で続いています。



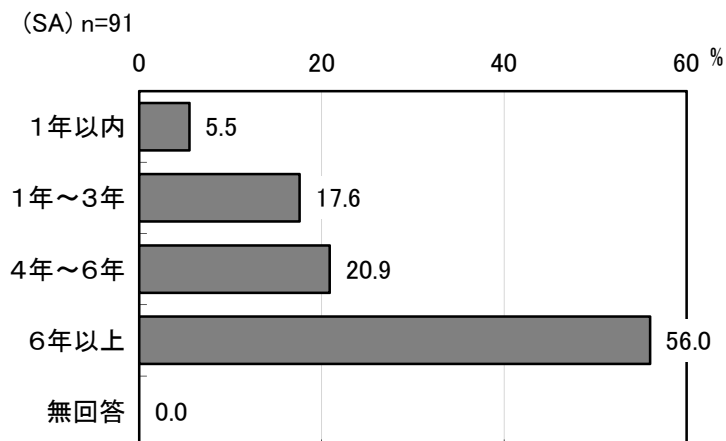
<その他回答>

会計係、介護度重度化防止推進員、事務局 他

② あなたが貴団体の活動に参加している期間を通算でお答えください。

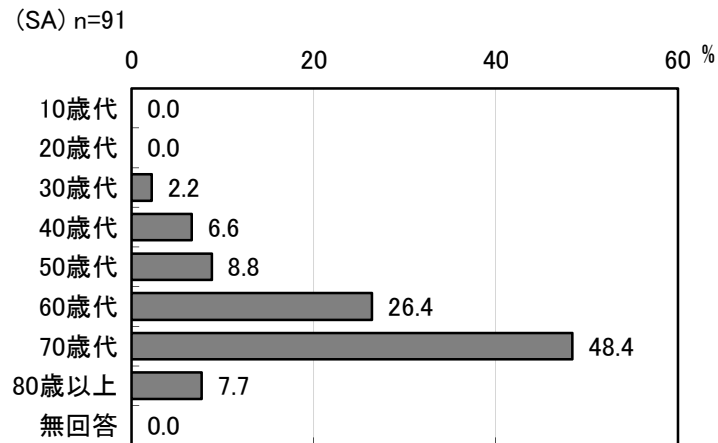
(○は1つだけ)

- 回答者の活動に参加している期間(通算)については、「6年以上」が51件、56.0%で最も多く、次いで「4年～6年」が19件、20.9%、「1年～3年」が16件、17.6%となっています。



③ あなたは、どの年代に当てはまりますか。(○は1つだけ)

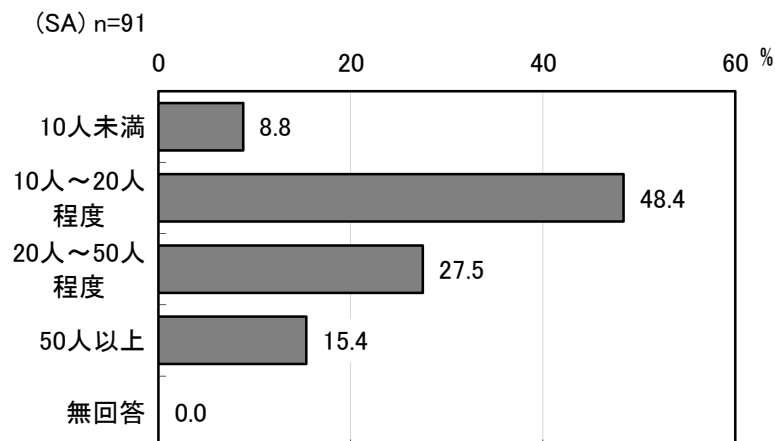
○ 回答者の年代については、「70 歳以上」が44件、48. 4%で最も多く、次いで「60 歳代」が24件、26. 4%となっており、60～70 歳代が全体の約3／4を占めています。



(2) 団体の概要について

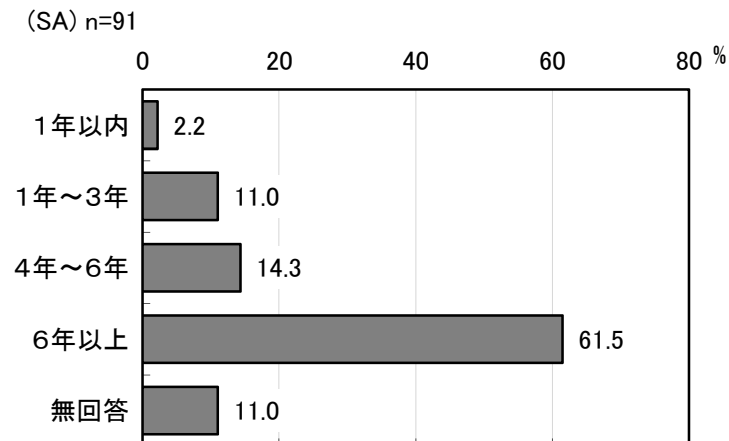
① 団体の会員数について(○は1つだけ)

○ 団体の会員数については、「10 人～20 人程度」が44件、48. 4%と約5割を占め、最も多く、次いで「20 人～50 人程度」が25件、27. 5%、「50 人以上」が14件、15. 4% の順となっています。



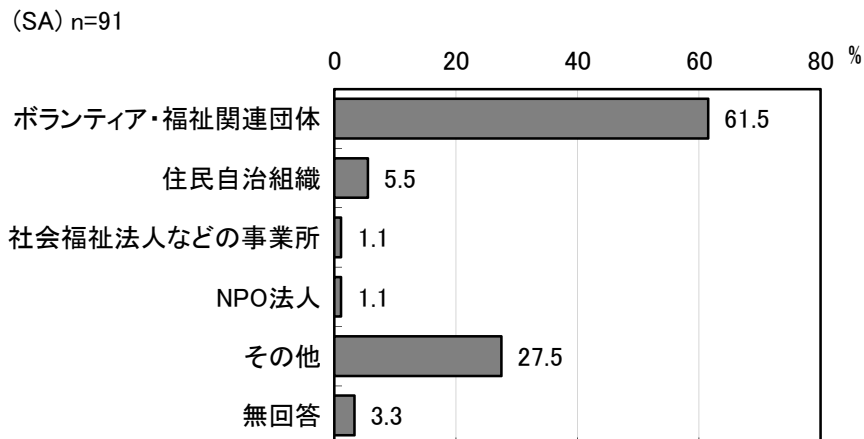
② 団体の活動年数について(○は1つだけ)

○ 団体の活動年数については、「6年以上」が56件、61.5%で最も多く、次いで「4年～6年」が13件、14.3%、「1年～3年」が10件、11.0%の順となるなど、比較的活動年数が長い団体が多いことが見て取れます。



③ 団体の組織形態について (○は1つだけ)

○ 団体の組織形態については、「ボランティア・福祉関連団体」が56件、61.5%と最も多く、次いで「その他」が25件、27.5%、「住民自治組織」が5件、5.5%が続いています。

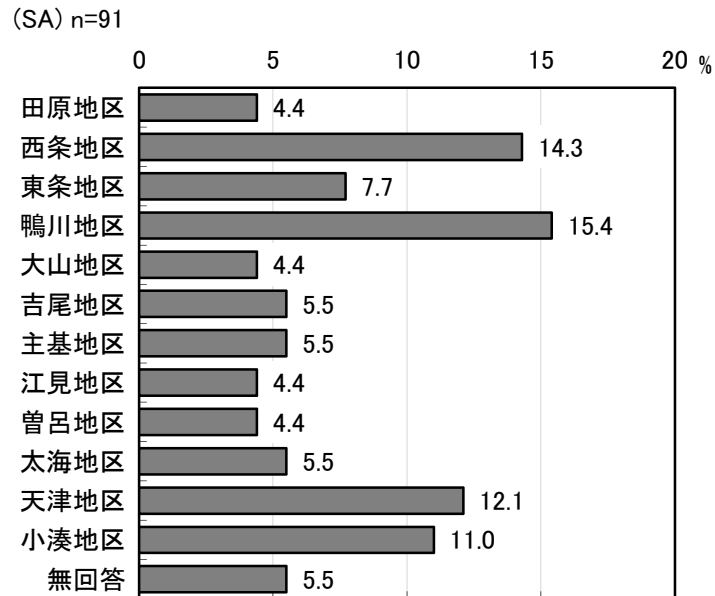


<その他の主な回答>

学童クラブ、教育団体、体育協会、文化協会、寺院婦人、精神障害者家族会、PTA、運営委員会組織 他

④ 団体の所在地について(○は1つだけ)

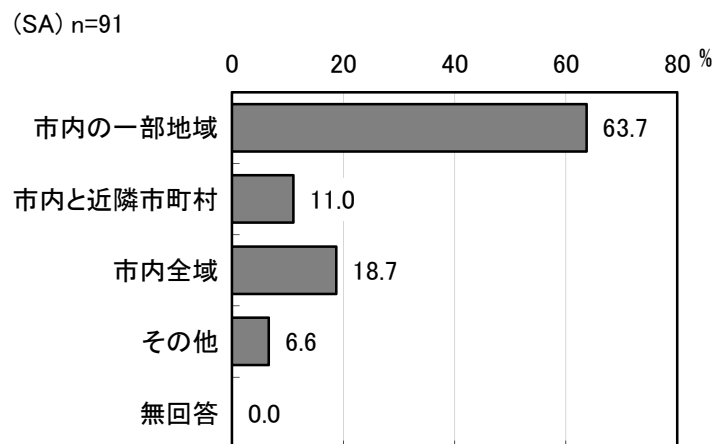
○ 団体の所在地については、「鴨川地区」が14件、15.4%、「西条地区」が13件、14.3%、「天津地区」が11件、12.1%、「小湊地区」が10件、11.0%と、件数、構成比ともそれぞれ2桁占めており、その他の地区は4件～8件で、5%前後の構成比となっています。



⑤ 団体の活動範囲について(○は1つだけ)

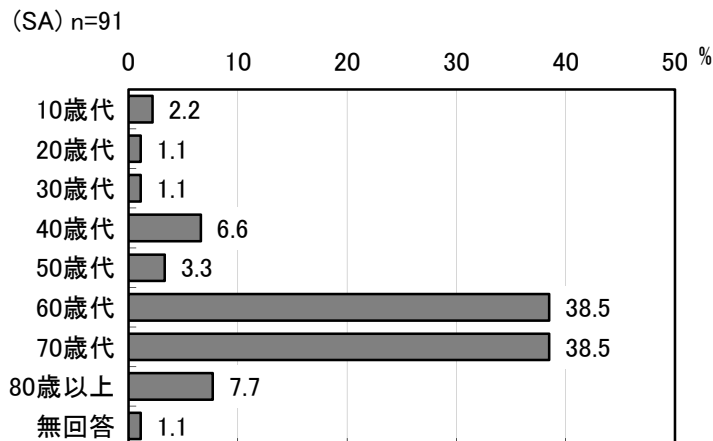
○ 団体の活動範囲については、「市内の一部地域」が58件、63.7%で最も多く、地域性が高いことが見て取れる。

次いで「市内全域」が17件、18.7%、「市内と近隣市町村」が10件、11.0%の順となっています。



⑥ 団体の会員(活動しているメンバー)のうち最も多い年代について(○は1つだけ)

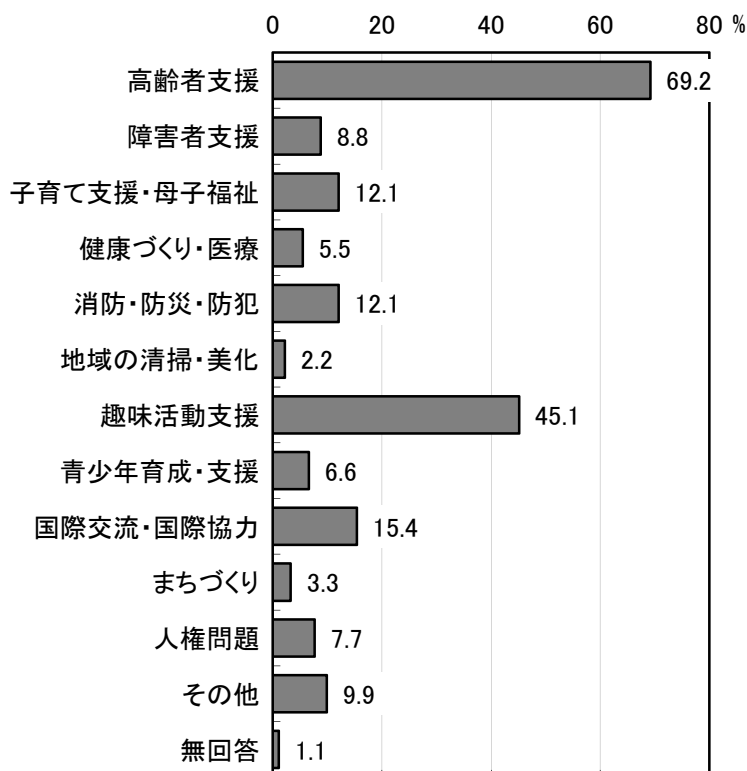
○ 構成会員の最も多い年代については、「60 歳代」と「70 歳代」で、それぞれ35件、38. 5%で最も多く、次いで「80 歳以上」の7件、7. 7%が続くなど、高年齢層が多数を占めていることが見て取れます。



⑦ 団体の主な活動分野について(最も当てはまるものから○は3つまで)

○ 団体の主な活動分野については、「高齢者支援」が63件、69. 2%、次いで「趣味活動支援」の41件、45. 1%が共に高く、次に高い「国際交流・国際協力」14件、15. 4%を大きく上回っていることが見て取れます。

(MA) n=91



<その他回答>

- ・学童クラブ
- ・事業所支援、地域活性化
- ・配食サービス
- ・文化宗教
- ・施設訪問など
- ・芸術文化活動の振興
- ・住民交流
- ・スポーツ

他

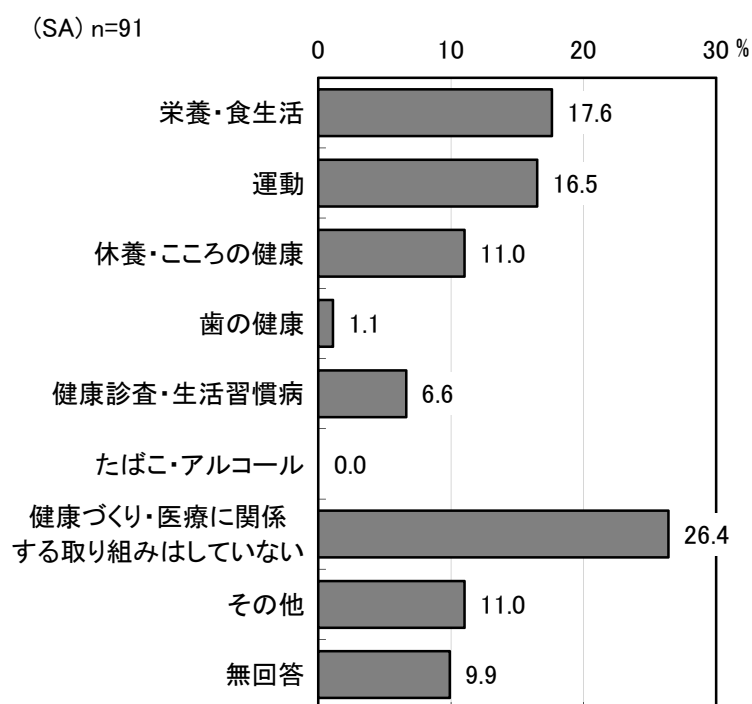
⑧ 団体の健康づくり・医療に関する取り組みの有無について（〇は1つだけ）

○ 健康づくり・医療に関する取り組みについては、「健康づくり・医療に関する取り組みはしていない」と回答した24件と無回答の9件を除いた58件、63.7%の団体が取り組んでいる結果となりました。

その取り組み内容別では、「栄養・食生活」が16件、17.6%(27.5%)、「運動」の15件、16.5%(25.8%)で、2項目をあわせると全体の34.1%(53.3%)を占めます。

次いで「休養・こころの健康」、「その他」がそれぞれ10件、11.0%(17.2%)でとなっています。

※()書きは、健康づくり・医療に関する取り組みを行っている58団体等に占める割合



<その他回答>

- ・健康に関することすべて
- ・健康づくり(運動) ※希望者の方に血圧測定
- ・研修会実施
- ・介護予防
- ・医薬品
- ・テーピング講習会

他

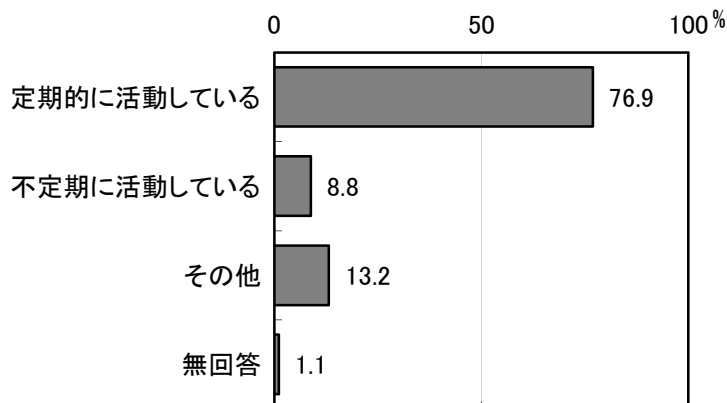
⑨ 団体の活動頻度について(○は1つだけ)

○ 団体の活動頻度については、「定期的に活動している」が70件、76.9%と「不定期に活動している」の8件、8.8%を大きく上回っており、参加しやすい環境が整っていることが見て取れます。

また、「定期的に活動している」と回答した70団体等の活動頻度については、「月1回」が58件、63.7%と最も多く、次いで「月3回以上」が13件、14.3%となっています。

なお、「不定期に活動している」と回答した8団体等の昨年度1年間の活動頻度については、「年5～9回」が4件、5割と最も多く、次いで「年10～14回」の3件、37.5%となっています。

(SA) n=91

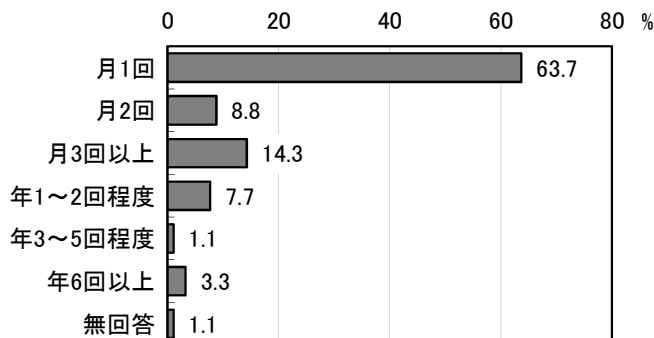


<その他回答>

- ・地区で必要とした場合多数
- ・各グループによって活動している。
(施設慰問など)昨年度の1年間は47回程度、活動した。
- ・途中で知りたい事は数人で勉強。
- ・特に活動していない。
- ・年5回
- ・学童クラブ 日・祝日はお休み
- ・年間を通して必要がある時には召集して活動する
- ・フォーラム等開催に向けて3～4回
- ・土日祝日を除き活動(月20回程度)
- ・月～金、第1、第3土曜日
- ・月1回の他に時々食事会等開く
(年11回程度)
- ・年間活動計画に基き計画的に活動
- ・他のボランティア団体と協力 他

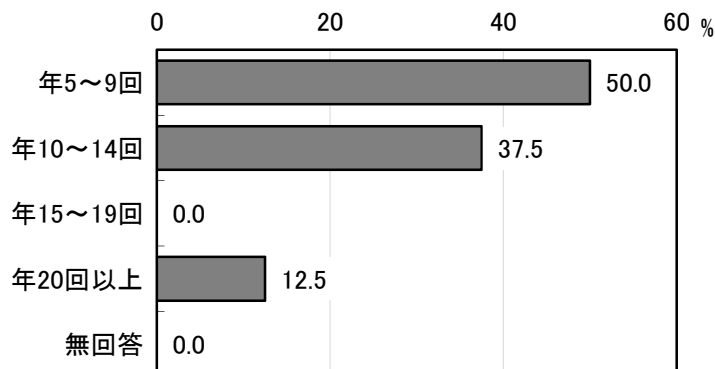
■「定期的に活動している」と回答した団体の活動回数

(SA) n=70



■「不定期に活動している」と回答した団体の昨年度1年間の活動回数

(SA) n=8



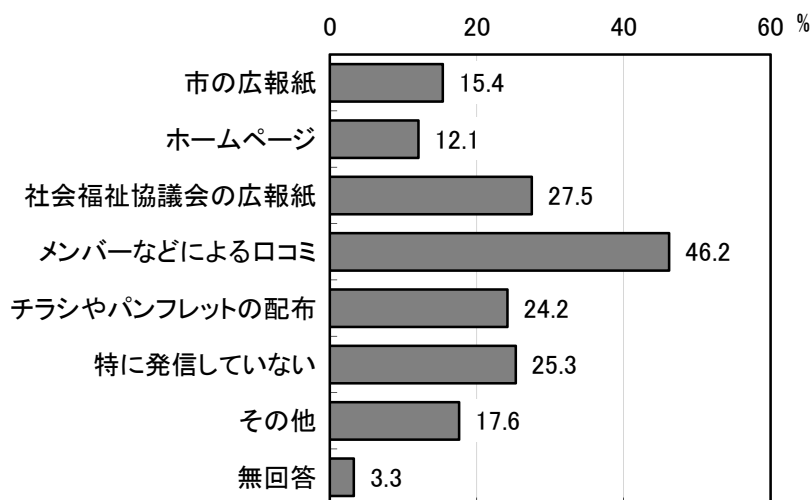
(3) 貴団体の活動の状況について

問1 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(〇はいくつでも)

○ 団体の活動情報の発信については、「特に発信していない」23件、25.3%と「無回答」の3件、3.3%を除いた65件、率にして7割を越える団体等が情報の発信を行っている。

しかしながら、その発信方法としては、「メンバーによる口コミ」が42件、46.2%が最も多く、媒体を活用したものとしては、「社会福祉協議会の広報紙」の25件、27.5%、「チラシやパンフレットの配布」の22件、24.2%など、1/4程度に留まっています。

(MA) n=91



<その他回答>

- ・団体広報誌
- ・地区社協独自に年2回広報誌を発行している
- ・活動だよりを発行しています(年2回)
- ・当団体の広報誌
- ・クラブ週報
- ・会報
- ・地区社会福祉協議会の広報紙を年3回発行
- ・今後、鴨川市「市民活動団体紹介一覧」に掲載予定
- ・総合相談センター等
- ・代表者の他団体に対するPR
- ・区民にサロン活動を回覧板で周知している
- ・地域活動の地域福祉とのサロン各月15日に1回
- ・まちの保健室開催
- ・30年間以上続いているので引き継がれている
- ・フェイスブック

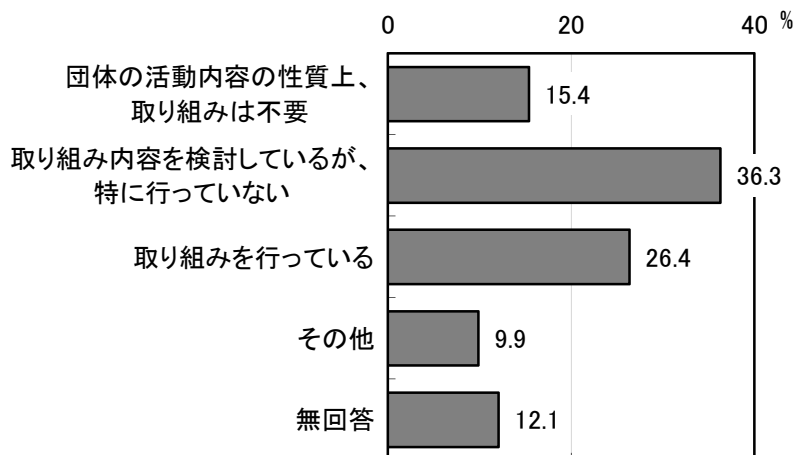
他

問2 会員以外の方が気軽に参加できるような取り組みを行っていますか。(○は1つだけ)

○ 会員以外の方が気軽に参加できる取り組みの状況については、「取り組み内容を検討しているが、特に行っていない」が33件、36.3%と最も多く、次いで「取り組みを行っている」が24件、26.4%となっています。

なお、取り組みの内容については次頁に掲載していますが、口コミによる勧誘、イベント等の開催が中心となっています。

(SA) n=91



<その他回答>

- ・団体の活動内容の性質上、取組みは難しい。
- ・声かけで参加呼び込み。
- ・協議会に市民が出席できる体制をとっている。
- ・現在、ボランティア、会員で30名以上なので新しい人はストップしています。
- ・自主活動。
- ・メンバーなどの口コミ。
- ・会員が中心となり組織しているサロン活動。
- ・区民一般に奉仕の精神が低い。関心を持たない人が多い。

他

＜具体的な取り組み例＞

- ・若手会員の勧誘。
- ・地区長の協力を得て、参加者募集等の案内を文書で実施。
- ・演芸等ボランティアの利用。
- ・個人ボランティアとして参加出来る。その際コーディネート(事務局)している。
- ・ロコミで広めている。誘い合っている。参加を呼び掛けている。
- ・高齢者が多くなっているため、後継者を誘っている(活動を実際に行っている人)。
- ・講習会等に参加して下さるよう友人等に呼びかける。
- ・訪問された方への行事等のPR。
- ・地区社協の年間計画に基づき活動している。
- ・ハロウィンや料理教室等。
- ・支部制にしたことで、各地域において参加しやすくなっている。いつでも入会可能。
- ・バスハイク等は会員以外でも希望者を募る。
- ・福祉活動に携わって、来た者に声をかけている。
- ・他のサロンとの交流会を行っている。
- ・展覧会、展示会等でロコミ参加勧奨。
- ・サロン活動(地域福祉とみんなで支えあいサロンなど)。
- ・研修会への案内。
- ・軽スポーツ大会、お茶を飲む(勉強)講座を行っている。
- ・メンバー募集のチラシ、ポスター。
- ・隊員の新規募集時に体験集会として参加を呼び掛けている。
- ・研修会に外部からの参加を認めている。

他

問3 活動を行う上で、貴団体が課題だと感じていることや困っていることはありますか。

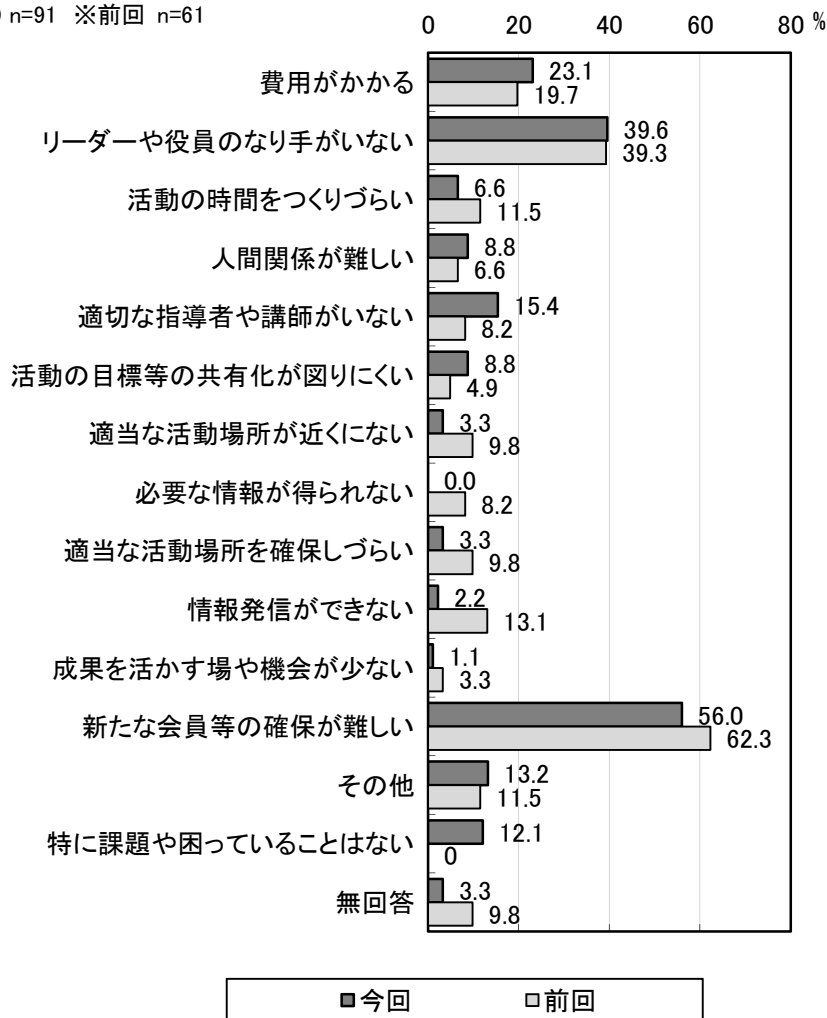
(○はいくつでも)

○ 活動を行う上で課題に感じることについては、「新たな会員等の確保が難しい」が51件、56.0%と半数を超えるなど最も多く、次いで「リーダーや役員のなり手がいない」が36件、39.6%、「費用がかかる」の21件、23.1%となっています。

前回の調査においても、「新たな会員等の確保が難しい」は38件、62.3%を占め、最も多い回答であり、次いで「リーダーや役員のなり手がいない」、「費用がかかる」も同様の順位であるなど、同様の傾向であることが見て取れます。

なお、この傾向にあって、「新たな会員等の確保が難しい」は前回から6.3ポイント減少している一方、「費用がかかる」が3.4ポイント上昇しています。

(MA) n=91 ※前回 n=61



※選択肢のうち、「特に課題や困っていることはない」については、今回の調査で新たに追加されたものであり、前回調査の設問には含まれておりません。

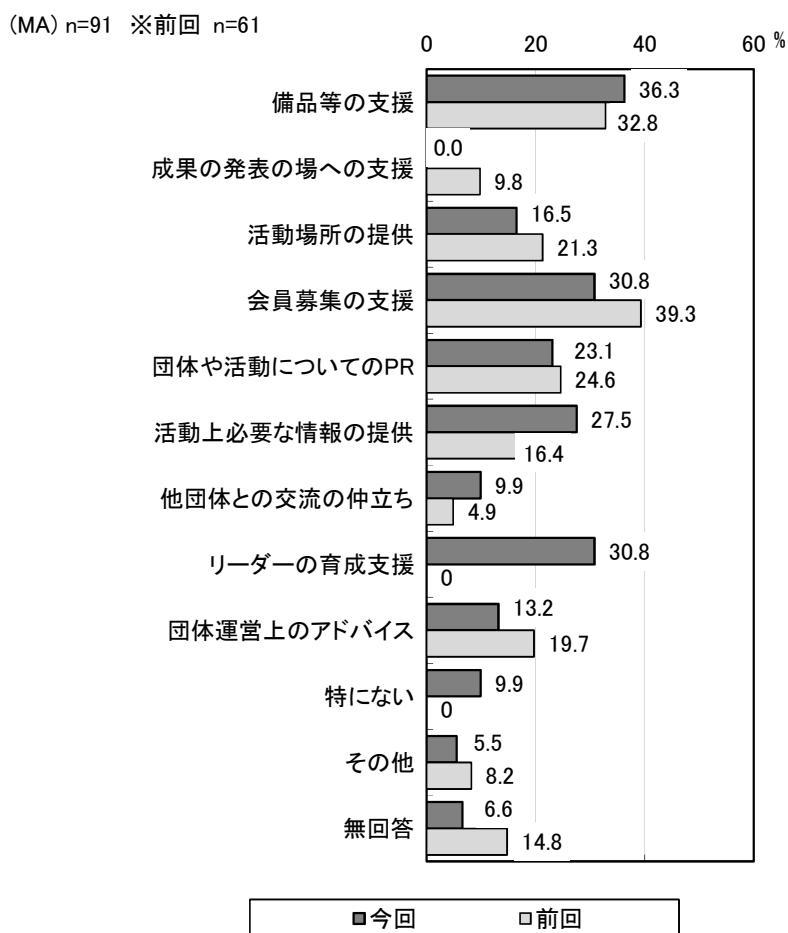
<その他回答>

- ・若者が忙しく不参加。ボランティアの後継者が少ない。
- ・活動の形態、活動しやすい環境づくり。
- ・送迎できる人がいない。買物、通院等の送迎手段の確保が必要。
- ・地区社協の活動やサロン活動が地域に十分認識されていない。 他

問4 活動をしていく上で、貴団体はどのような支援を市に望みますか。(〇はいくつでも)

○ 活動を行う上で市に望むことは、「備品等の支援」が33件、36.3%で最も多く、次いで「会員募集の支援」及び「リーダーの育成支援」が28件、30.8%、「活動上必要な情報の提供」の25件、27.5%となっています。

前回の調査では、「会員募集の支援」が24件、30.8%と最も多く、次いで「備品等の支援」が20件、32.8%、「団体や活動についてのPR」の15件、24.6%となっており、概ねの傾向は同様であるものの、「会員募集の支援」については8.5ポイント減少し、「備品等の支援」は前回から3.5ポイント増加しており、特に「活動上必要な情報の提供」が16.4%から27.5%と、実に11.1ポイント上昇しています。



※選択肢のうち、「リーダーの育成支援」、「特にない」については、今回の調査で新たに追加されたものであり、前回調査の設問には含まれておりません。

<その他回答>

- ・天津・小湊地区の介護サポーターの様な組織を全市に広げたい。
- ・学童クラブの経営すべて。
- ・活動の場の改善。
- ・参加への送迎支援。
- ・男の参加者が欲しい。
- ・活動がマンネリ化しやすい。又、介護予防を目的とした行政(福祉関係者)とのつながり。
- ・地域福祉充実のため、区長会(町内会)の全面支援。

他

問5 問3で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。ご自由にお書きください。

- 活動を行う上での課題の解決策については、「新たな会員の確保・担い手の育成」に関する意見が最も多く寄せられました。その他、「団体活動に対する助成や補助金などの経済的支援」、「団体活動への理解促進・情報提供・PRの強化」、「団体活動の場の確保・参加しやすい環境づくり」、「行政による団体活動への支援」などについても意見が寄せられています。

【原文のまま掲載】

新たな会員の確保・担い手の育成
会員の相当数は老人(60～70歳代)であるが、農家のため、毎日自分なりの仕事をもっていることから、活動に無理している
ボランティアをやる方がこの地区におりませんので、役員のなり手がなくて困っています。
後継者として、ターゲットとしたいリタイアした方がいない。いても、意思を示してくれない等をクリア出来ればと思います。
新しいボランティアが加入されることを望んでいます。
大正琴の基本から学んで欲しいため、大正琴に興味のある、又は、上手にひけるようになりたいという会員の募集に困っています。何とかお力を借りたいです。その為には、色々な場所で演奏披露、コンサートが必要かと考えています。若者の集う所で、演奏場所を紹介して欲しいと思っています。よろしく願い致します。
仕事を持っている人、無い人とのバランスによる。
市又は社協でボランティアの育成をしてほしい。
会員の確保が難しい。若い人達は働きに出ている方が多いので困難です。
ボランティア活動そのものがまだ広く浸透していないことが残念に思いますが、地域福祉を適切にコーディネートできる人材に欠けているのが最大の課題だと思う。実践に強い人材の育成を求めます。
若い人の協力が欲しい(車の運転やPCの扱い等、新しい考え方も参考にしたい)
自治会等加入促進
①古い会員が新人を排他的にする場合がある。②古い会員が新人を手なづけて仲間にする傾向
①送迎ボランティアの募集協力をお願いしたい ②リーダーの募集(60代の人)を！
市内の外国人居住者に Reach し、情報を伝え、会員になって欲しい。
頻繁に人員を募る。各集落における介護予防等に関心を持つ者を推薦してもらう。養成講座を行う。
地域的に対象者が少ない為に確保が難しいという事なので、解決策は今現在みあたらない。
ボランティア自身が研修を含め指導力やリーダーとしての力を高める(負担の無い程度)。
新規会員の洗い出しと呼びかけ、市においてもボランティア養成に力を入れて欲しい。
各地区の自治会組織の強化、リーダーや役員育成の支援(地区で考えるべき内容かも?)
ボランティア参加者に特典を与える制度を考えて欲しい。現役の世代には期待できないので、元気な高齢者の参加を促す福祉ポイントを導入するなど検討できないか。

区長は市政協力員であることは言葉ではわかっている様だが、現実には理解できない様だ。回覧文書はまわすが、それ以外はやらないようだ。特に福祉、防災関係では積極的に活動して欲しい
福祉の後継者育成
ボランティアの担い手の育成が急務だと思う。全市民向けの福祉教育を継続的に実施し、住民意識の醸成を図ることだと考える
高齢化の加速により、会員が減少傾向にある。このため、新会員の確保が急務であり、若手会員確保のための情報、アドバイス等の支援をお願いしたい。
職員の処遇改善や仕事の共通理解を図る。
団体活動に対する助成や補助金などの経済的支援
ゲーム等に使用する材料費の補助や景品代の助成等
財政的な支援、会員募集の支援、活動上必要な情報の提供
場所代ですが、今は地区社協から出していただいておりますが、出なくなると会員の方の負担となり困ります。
町からの助成金があると助かる。(ラジカセがないので困っています)
出来るだけ費用がかからない様にする(役員が出来るだけ野山に行き作品を調達している)・古着等を利用している。
予算の裏付け。
補助経費が年々減少しているようだが、どうにか歯止めはかからないものか。
高齢者の健康維持&精神的安定のためのサロン活動等への費用、財源の援助
助成金があると大変有難い。大きなチャリティ講演開催には、開催するまでの財源確保のため、地域の数多くの皆様に広告供覧などをお願いをしなければならず苦労している。企業等の助成金などが確保できれば有難い。
団体活動への理解促進・情報提供・PRの強化
活動内容のPRなど団体の理解と協力をこれからも考えるべき。
各方面への理解と周知
情報をあらゆる媒体を利用して発信する。
観光協会、商工会が出しているイベントカレンダーに似て、年間ではなくても大きなチラシ等があれば、活動している日時、場所等がわかるのでは。
会費の値下げやPRを行う
団体の活動状況を地区の住民の皆様に理解していただく為、広報活動を充分行い、理解と協力を促し、地区全体の共通認識を高めたいが、広報紙の発行に苦慮している。
少子化の影響、保護者の関心の低下が大きいと、引き続き、市広報誌などで市内ボランティア団体の活動内容の周知などを図っていただければと思います。
悩んでいる家族の方が相談に行った場合、気軽に見学できる家族会だとPRして下さい。
行政との連絡を密にし、そのときに必要な情報等を流してもらいたい。
地域に密着した活動や広報活動
イベント等によるPRを行う

団体活動の場の確保・参加しやすい環境づくり
使われなくなった学校・幼稚園で活動できるようになったのは、とてもうれしいことです。食事が提供できると尚良いのではないのでしょうか。(例)蕎麦打ちのそば、ワンコインランチなど…人が集う場ができると良いと思う。
公共の場には階段があったり、場所が遠くなる為、ずい分と探してみましたが、非常に難しい問題だと思いました。
調理室の改善、湯沸かし器の設置
巡回バスやデマンドタクシー等、足の確保が必要
参加しやすい場所として各集落の集会場の利用。利用しやすい会場として整備を図る。
文化祭等展示場所が1ヶ所でできるよう希望(現在、2会場に分散展示)
買物、通院等、足の不自由な方及び車など乗れない人への支援不足
行政による団体活動への支援
学童クラブは、共働き家庭には必須ですが、クラブの運営はすべて、父母がやっており、仕事の片手間でできるような事ではないので、市が経営すべてをやっていただけると、とてもありがたいし、子育て世代には住みやすい市となるとおもいます。
定期的な評価をお願いしたいと思う。
運営上の指示や指導を市から受けること、または、いずれは市営でお願いしたい。
市や各団体との交流
学童クラブの市による運営
その他
会員の個人的な考えにバラつきがある為、割と自由にしています。
声を掛けても参加しない人は(人の中に入れない、自分勝手な人だと思うが?)人生は一人でないことを知ってほしい。
サポートしてあげたい高齢者ほどサロン参加が少ない。
行政共々地域及び町ぐるみで福祉課題に取り組みたい。
私達の団体は、鴨川市だけではなく、安房地区全体で話し合って活動していることが多いです。鴨川地区だけで活動することがめったにないです。

(4) 健康づくりについて

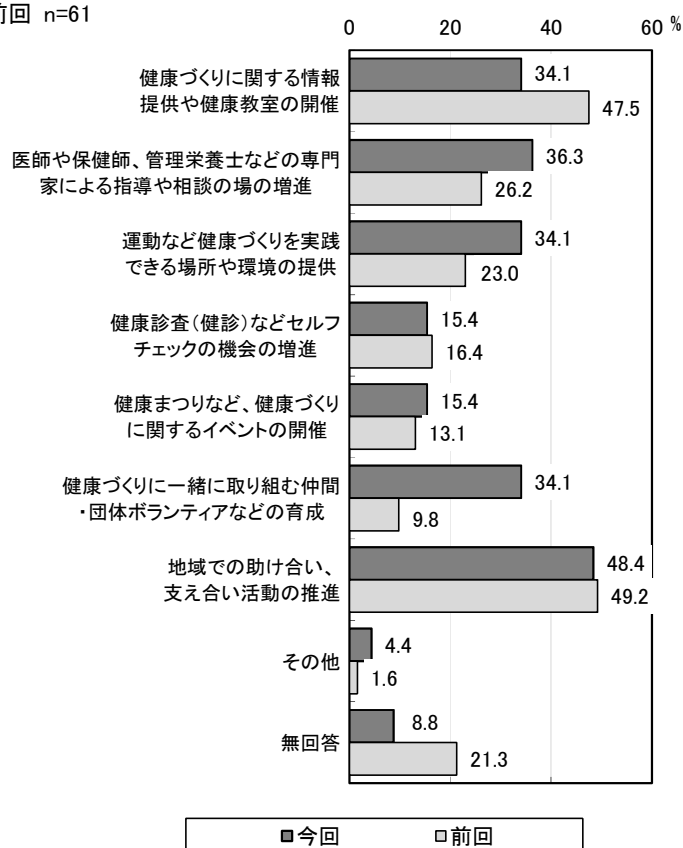
問6 健康分野において、鴨川市では今後、どのようなことに力を入れていくことがよいと思いますか。(〇はいくつでも)

○ 健康分野において鴨川市が力を入れていくべきことについては、「地域での助け合い、支え合い活動の推進」が44件、48.4%で最も多く、次いで「医師や保健師、管理栄養士などの専門家による指導や相談の場の増進」の33件、36.3%、「健康づくりに関する情報提供や健康教室の開催」、「運動など健康づくりを実践できる場所や環境の提供」、「健康づくりに一緒に取り組む仲間・団体ボランティアなどの育成」が、それぞれ31件、34.1%となっています。

前回の調査でも、「地域での助け合い、支え合い活動の推進」が30件、49.2%で最も多く、地域での助け合い、支え合いを重視する傾向に変化はありません。

また、「健康づくりに一緒に取り組む仲間・団体ボランティアなどの育成」が24.3ポイント上昇したほか、「医師や保健師、管理栄養士などの専門家による指導や相談の場の増進」が10.11ポイント、「運動など健康づくりを実践できる場所や環境の提供」については11.1ポイントも上昇し、団体の人材育成のほか、健康づくりの場所や専門的な指導や情報提供を求める傾向が高くなっています。

(MA) n=91 ※前回 n=61



<その他回答>

- ・健康づくりに男性が不参加のため、ジムの様なものをつくるなど何か手を打つ必要がある。
- ・健康づくりに活用できる公園をつくる。
- ・小さい地区ごとの健診が必要と思う。高齢者が多くなり、遠い所まで健診に行かれないため、近くで出来ることを望みます。
- ・気軽に行ける健康教室を近くで行う。

他

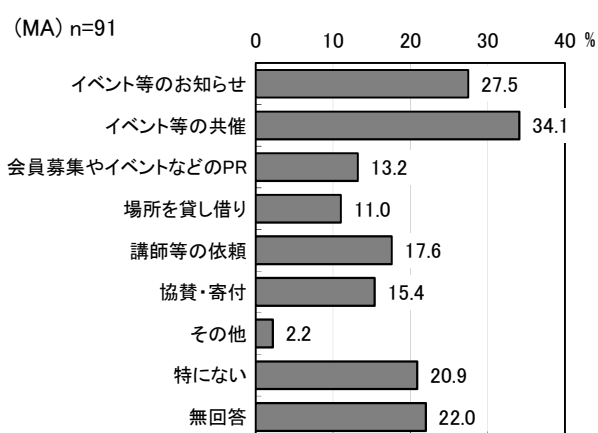
(5) 団体から見た地域の状況について

問7 貴団体では、地域の他団体や会員以外の個人との交流がありますか。(〇はいくつでも)

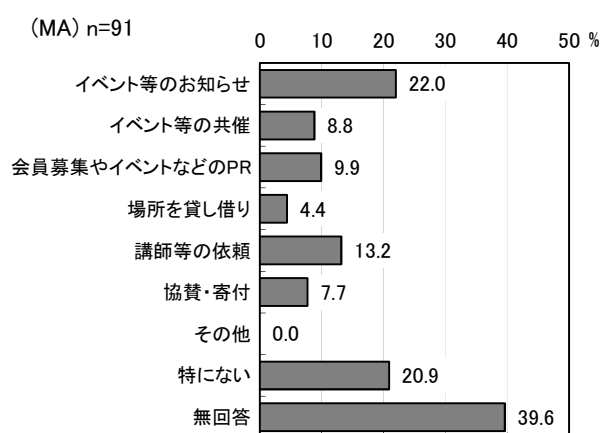
○ 地域の他団体や会員以外の市民個人との交流の状況については、まず他団体との交流においては、「イベント等の共催」が31件、34.1%で最も多く、次いで「イベント等のお知らせ」が25件、27.5%となっています。また、市民個人との交流においては、「イベント等のお知らせ」が20件、22.0%で最も多く、次いで「特にない」が19件、20.9%が続いています。

前回調査でも、「イベント等を一緒に行うなどの交流がある」が33件、実に54.1%を占め突出していますが、今回は20ポイント以上減少するなど、交流内容の偏りが平準化されつつあることが見て取れます。

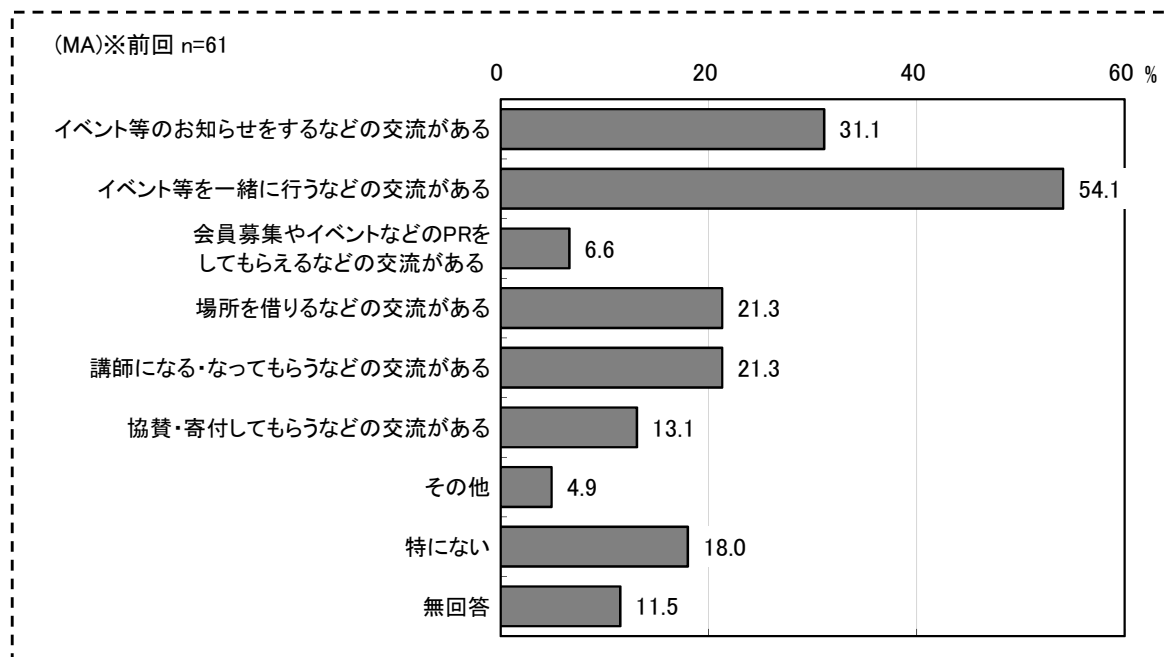
■他団体との交流



■市民個人との交流



■前回調査



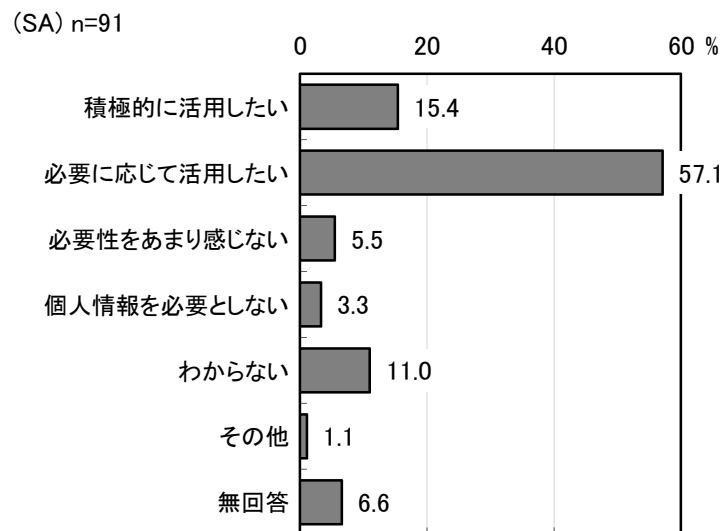
<その他回答>

春秋のバス旅行、学校と福祉教育で連携 他

問8 貴団体では、地域での支え合いや、孤独死・生活困窮・虐待防止等のために必要な個人情報提供が提供されることとなった場合には、活用しますか。(〇は1つだけ)

○ 孤独死・生活困窮・虐待防止等のために個人情報提供が提供された場合の活用の意向については、「必要に応じて活用したい」が52件、57.1%で最も多く、次いで「積極的に活用したい」の14件、15.4%となっており、これらを合算した活用意向は66件、率にして7割を超えるものとなっています。

なお、「問4 活動をしていく上で、貴団体はどのような支援を市に望みますか。」の設問において、「活動上必要な情報の提供」に25件、27.5%の回答があり、かつ前回調査と比較して11.1ポイントも上昇する高い伸び率を示していることから、活動上必要な情報の提供をもとめていることが見てとれます。



<その他回答>

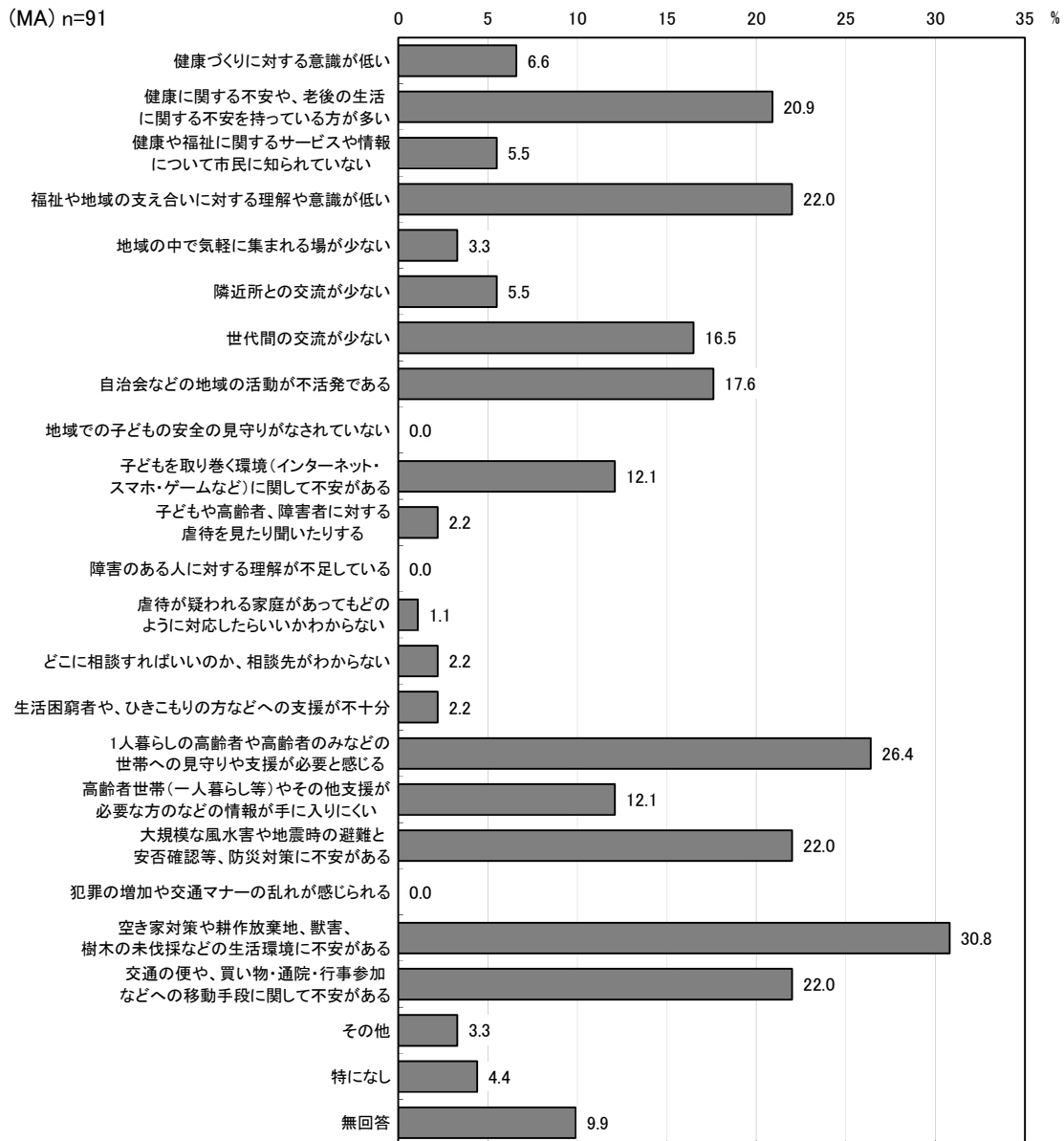
・今出てくる人は足の不自由な人が多く、月1回の参加を楽しみにしている為、外の場所等に行くとかの話し合いにはあまり関心がないように思われます。

問9 貴団体の活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。

以下の1～22の中から、最もお考えに近いものを3つ選んでください。

(○は3つ。特になしという方は「23」に○をつけてください。)

○ 活動をする中で感じる地域の問題点や課題については、「空き家対策や耕作放棄地、獣害、樹木の未伐採などの生活環境に不安がある」が28件、30.8%で最も多く、次いで「1人暮らしの高齢者や高齢者のみなどの世帯への見守りや支援が必要と感じる」の24件、26.4%、「福祉や地域の支え合いに対する理解や意識が低い」、「交通の便や、買い物・通院・行事参加などへの移動手段に関して不安がある」及び「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある」が、それぞれ20件、22.0%となっています。



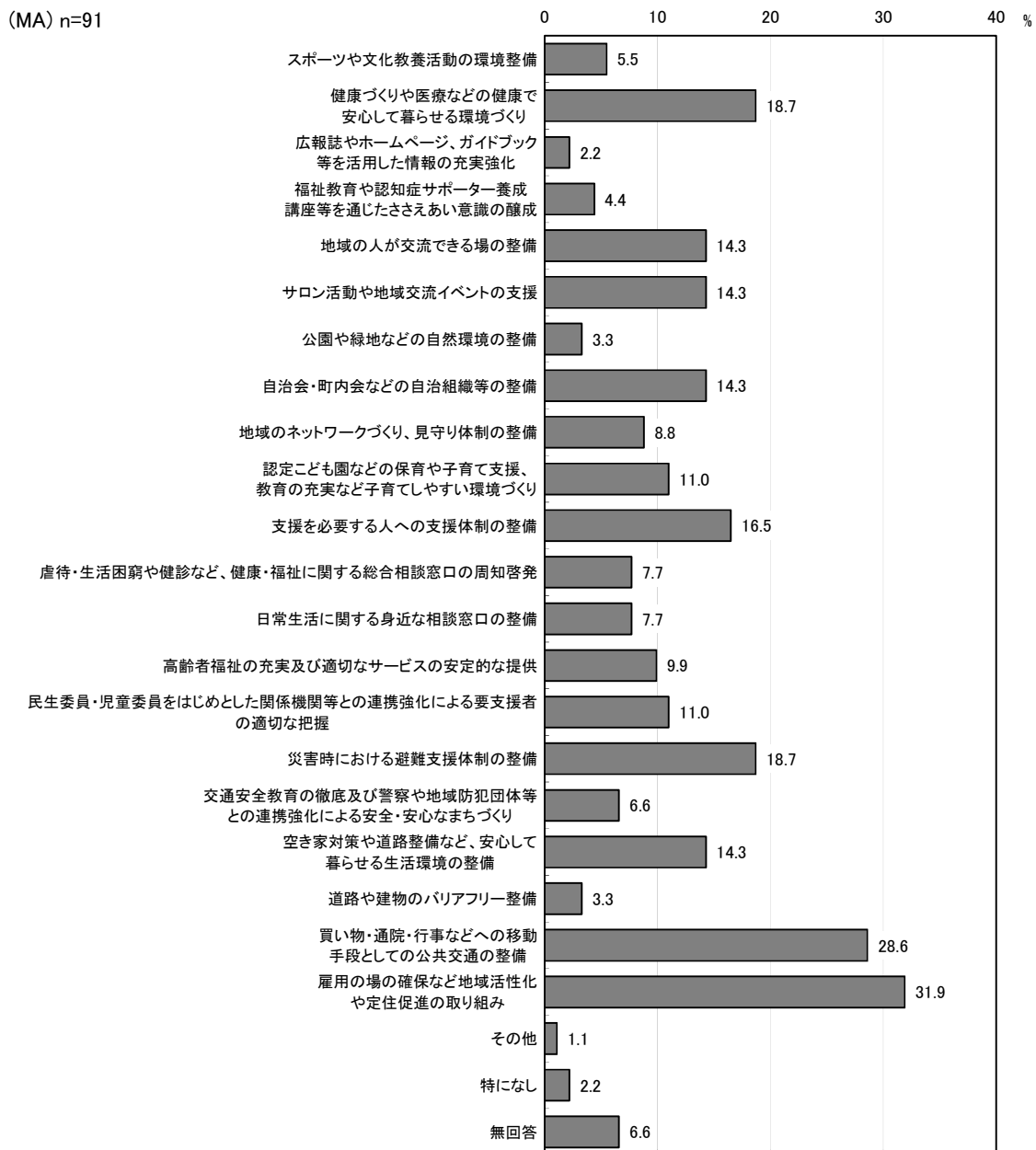
<その他回答>

- ・結婚していない人が多い。(40歳以上の人)
- ・老人の歩行が気になる。(道路)
- ・隣組の加入者が少ない。(特に新住民や集合住宅の人達)
- ・地区社協の内容が何も分からない、地区全体を見てほしい。 他

問 10 貴団体の活動を通じて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。最もお考えに近いものを3つ選んでください。
(○は3つ。特になしという方は「23」に○をつけてください。)

○ 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なことについては、「雇用の場の確保など、地域活性化や定住促進の取り組み」が29件、31.9%で最も多く、次いで「買い物・通院・行事などへの移動手段としての公共交通の整備」が26件、28.6%の順となっています。

前設問でも、「1人暮らし等の高齢者世帯への見守りや支援」、「交通の便や、買い物・通院・行事参加などへの移動手段」及び「大規模災害時の避難と安否確認等の防災対策」が上位を占めていたが、それをほぼ反映した結果となっていることが見て取れる。



<その他回答>

・赤ちゃんから高齢者まで、世代をこえた交流の場で活躍がほしい。 他

(6) 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やアイデアがございましたら、ご自由にお書きください。

- 活動を行う上での課題の解決策については、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」にすることが最も多く記述がありました。その他、「ボランティア・担い手などの人材の育成」、「自治会組織の強化」、「活動の場づくり」、「福祉意識の醸成」、「健康づくり」、「まちの活性化」などについての記述がありました。その他、「市への要望」や「計画に対する意見」なども記述されています。

【原文のまま掲載】

誰もが安心して暮らせるまちづくり
精神障害者が働きたくても、理解して受け入れてくれる事業がなかなか見つからないのが現状です。障害者が働きやすいまちづくり、事業主に理解してもらえるような働きかけを考えてほしいと思います。
高齢化が進む地域としては、高齢者又弱者にやさしい町、システム作り、見守りのネットワーク、又生活困窮者に対しての支援等、身近に数多くあるが不安という人達に早く手が届くまちにしてください。
移動手段の整備は市が積極的にすすめるべきと考えます。
高齢者にとっては、まず居場所、交流の場の整備、子育てが安心して出来る環境の整備等。
10年後には全国で認知症が5人に1人と言われている。この予防対策を進めるべきで、また、認知症サポーター養成講座等も、もっと充実したものにしたいと思っています。
地域のつながり、ネットワークづくりなど、整備することを急ぐべきです。
ボランティア・担い手などの人材の育成
30代～60代の方のボランティアを育成に。活動された方にチケットを配布。生活に生かせるチケットがうれしいかな。育成に結びついたらよい。
自助、共助と言われているが、福祉活動に参加する人が少ない。どんな活動でも特定の人に集中して、やりきれない状況にある。担い手が育たない理由は何なのか。未だ公助を期待している人が多い。地域のリーダーのなり手がいないが、行政の職員は、現職の時には市民に協力を求めている、自分が退職後は非協力の人が多い。本来、その様な人が地域のリーダーなどを担っていくべきだと思っています。
後継者不足。日常ウィークデイなら若い人は勤めや学校で、家に残っているのは高齢者のみ。非常時には、これらの高齢者を守っていかななくてはならないので、区長さんを中心に、自主防災組織の実践を強化して欲しい。高校や大学で福祉に着目して勉強しているので、地区住民との交流会を開き、後継者の養成ができないか。
自治会組織・地域活動の強化
自治会組織が崩壊する方向は、お互い高齢で一人暮らしだと、自治会の活動(集金・回覧板など)ができないので退会する方向なので、お互い様の精神で役から免除したり、脱会しないようにしなければと思う。

以前には全市的な催し(体育祭など)があり、新住民を交えて和気あいあい絆を深めたいけれど、是非組織を市民が自主的に立ち上げるような方向に持って行って貰いたい。近隣市町村や、千葉の親子3代夏祭り等が考えられる。対外的に立派な陸上競技場があるが、市民が気軽に使えない。
色々な所から入ってくる人が増加する中、自治会&町内会などの組織強化を図ると共にお互いの支え合いの雰囲気醸成することが大切ではないかと思う。
福祉活動は持ち回りという言葉があるとおり、与える余裕のある時に与えられることを欲している方に与える奉仕活動であると考えますが、一部の役員だけのものとなる傾向がある。自治会をはじめとする地区全体の問題を考え地域ぐるみの取り組みとして展開する必要を考えます。
住み続けられるまちづくりのための社会資源の再度の洗い直し・調査による結果から見えてきた課題の的確な把握・分析により、解決に向けて、地域福祉活動団体への情報の提供・共有による地域づくりの推進が行政の役割と考えます。
活動の場づくり
空校庭等を自由に使えるようにして(館山の市民運動場)、老人と壮年者の健康づくりに活用させたい。
空公共施設(学校、幼稚園、保育園)が地域に対して少しでも住みやすい方向へと利用される事を願っています。地域の活性化も考慮して欲しいです。(空施設の利用、企業誘致等々)
福祉意識の醸成
利他の心を大切に。
市民が自分は何に困っているのか、自分は何ができるか、改めて確認できる機会を持つことが地域づくりの第一歩になると思います。
福祉活動は持ち回りという言葉があるとおり、与える余裕のある時に与えられることを欲している方に与える奉仕活動であると考えますが、一部の役員だけのものとなる傾向がある。自治会をはじめとする地区全体の問題を考え地域ぐるみの取り組みとして展開する必要を考えます。
少子高齢化が急速に進展し、行政における支援体制も縦割りの支援に留まり、充実した支援が不可能となり、各地域での支えあえる福祉、充実した福祉が急務となっている。そのためには、福祉後継者の育成及び地域の区長会(町内会)等に働き掛け、市政協力員として地域福祉の充実を図ることが不可欠である。 山間地域の住民や農家の人々は、地域の福祉についても理解が薄く、地区の区長会(町内会)など、身近な事柄には耳を傾けるものです。そのために厚労省が全国的に安心生活創造事業なるものを企画し、地域福祉充実を目指しているところです。一般的に区長会は、行政、防災、環境美化のみで、福祉は民生委員、地区社協に任せているため、地域住民の福祉に対する関心度が薄く、地域福祉の充実も実現できないようになっている。

健康づくり
鴨川市は糖尿病有病率が県下トップとのこと。このことは、近年急に増えた病気とも思えない。長狭地区の疾病率を下げる為に始めた「健康まつり」が中止されたことでも分かるように、住民の意識も低い。行政トップの方針が適性を欠いているのではないかと。
まちの活性化
医療、観光の町も大切ですが、今一番鴨川市に必要な事は、若者達の地元で働き、先の見える職場だと思います。高齢化はどんどん進んでいくばかりです。今から100年先を考えていただきたいと思っています。
若者たちが地元に戻ってきて働けるような職場を、又、地元の大学を出て鴨川市で働きたいと思うような町づくりを期待します。
高齢者支援も大切だが、子育て環境の整備が一段と大切になってくると思います。安房郡市中で特殊会計出生率は当市が一番低いということも耳にします。子育て支援課の奮闘に期待します。
高い教育を求める者は市外に子供を出している。高い教育の場、もしくはそのような学校の誘致が必要。
経済の安定。若者が集まる場所を多く取り入れて、安全な町のイメージを強くしていく。食べ物の豊かさの維持、豊かな環境、自然の維持に力を入れていく。
行政への要望
学童クラブを市が運営してほしい。
地区社会福祉協議会へ支援をお願いいたします。
やる事が無くてブラブラ遊んでいる人に何か仕事を(高齢者)見つけてやって下さい。(やれる人に)生きがいを持たせて下さい。社会的にマイナスになってしまうと思います。質問をもっと具体的に短く(長すぎる)
私達は学童保育なのでどれもあてはまらない物が多いのですが、民設民営で鴨川市から補助金をもらって活動しているので、早く公営で学童保育を行ってほしいと思います。
地区の体育館の出入り口にスロープの手すりをつけて欲しい。
弱者(高齢者とは限らず)に対する医療費の改善を講じて欲しい。
計画に対する意見
計画策定に当たっては、100年の目標を作り、それを踏まえた5年計画にして欲しい。5年ごとに目標計画を作っているのは、少ない予算が有効活用されないことになる。

資 料

関係団体アンケート調査票

鴨川市健康福祉推進計画策定のための関係団体アンケート ご協力をお願い

関係団体の皆様におかれましては、日頃から市政に対しご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市におきましては、誰もが住み慣れた地域で、健康で安心して暮らし続けられる地域づくりを目指し、平成 28 年度から平成 32 年度までを計画期間とする第 2 期鴨川市健康福祉推進計画の策定に着手しております。

つきましては、第 1 期計画策定時と同様に、健康福祉関係団体等の皆様を対象にアンケート調査を実施し、貴団体のご意見等を計画策定のための基礎資料とさせていただきたいと存じます。

今後の鴨川市の健康福祉の方向性を見定める重要な計画となりますので、お忙しいところ大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは、貴団体のご様子や、ご意見をおたずねしていますので、回答は、極力、封筒のお宛名の代表者の方（難しい場合は、役員等、代表に準じる方）がご記入をお願い致します。

なお、お答えいただきました内容は、すべて統計的に集計し、調査の目的以外には一切使用いたしませんので、お考えのままお書きください。

平成 27 年 9 月

鴨川市長 長谷川 孝夫

◆ご記入にあたってのお願い

1. ご回答は、該当する番号を○で囲んだり、具体的に記述するなど、指定する方法でお書きください。
2. 封筒やアンケート用紙にお名前を記入する必要はありません。

◆アンケートの回収について

誠に勝手ながら、集計の都合上、このアンケート用紙に回答を記入の上、同封の返信用封筒に入れて、**9 月 30 日(水)までに**ポストに投函してください。

◆アンケートに関するお問い合わせ先

鴨川市役所 福祉課 電話：04-7093-7112（直通） FAX：04-7093-7115

■記入してくださる方（あなた）についておたずねします。

①あなたの役職（立場）についておたずねします。（○は 1 つだけ）

- | | | |
|----------------|--------|---------|
| 1 会長（代表者、リーダー） | 2 副会長 | 3 その他役員 |
| 4 一般会員 | 5 その他（ | ） |

②あなたが貴団体の活動に参加している期間を通算でお答えください。（○は 1 つだけ） （役職の就任期間ではなく、活動の期間を回答してください。）

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 1 1 年以内 | 2 1 年～3 年 | 3 4 年～6 年 | 4 6 年以上 |
|---------|-----------|-----------|---------|

③あなたは、どの年代に当てはまりますか。（○は 1 つだけ）

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1 10 歳代 | 2 20 歳代 | 3 30 歳代 | 4 40 歳代 |
| 5 50 歳代 | 6 60 歳代 | 7 70 歳代 | 8 80 歳以上 |

■貴団体の概要についておたずねします。

①会員数※ (活動に参加している方 の人数) H27.8 現在 (○は1つだけ)	1 10人未満 2 10人～20人程度 3 20人～50人程度 4 50人以上	②団体の活動年数 (○は1つだけ)	1 1年以内 2 1年～3年 3 4年～6年 4 6年以上
③組織形態 (○は1つだけ)	1 ボランティア・福祉関連団体 2 住民自治組織 3 福祉法人・福祉関係事業所 4 NPO法人 5 その他(具体的に: _____)		
④所在地 (○は1つだけ)	1 田原地区 2 西条地区 3 東条地区 4 鴨川地区 5 大山地区 6 吉尾地区 7 主基地区 8 江見地区 9 曾呂地区 10 太海地区 11 天津地区 12 小湊地区		
⑤活動範囲 (○は1つだけ)	1 市内の一部地域 2 市内と近隣市町村 () 3 市内全域 4 その他 ()		
⑥会員(活動している メンバー)のうち最も多 い年代 (○は1つだけ)	1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 80歳以上		
⑦主な活動分野 (最も当てはまるもの から○は3つまで)	1 高齢者支援 2 趣味活動支援 3 障害者支援 4 青少年育成・支援 5 子育て支援・母子福祉 6 国際交流・国際協力 7 健康づくり・医療 8 まちづくり 9 消防・防災・防犯 10 人権問題 11 地域の清掃・美化 12 その他 ()		
⑧健康づくり・医療に関 係する取り組みの有無 (○は1つだけ)	1 栄養・食生活 2 運動 3 休養・こころの健康 4 歯の健康 5 健康診査・生活習慣病 6 たばこ・アルコール 7 健康づくり・医療に関する取り組みはしていない 8 その他(具体的に: _____)		
⑨活動頻度 (当てはまるものを1つ だけ選んで○をつけ、 ()内にご記入 ください。)	1 定期的に活動している → 基本は () 当たり () 回程度 【記入例: (月) 当たり (1) 回程度】 2 不定期に活動している → 昨年度の1年間は () 回程度、活動した 3 その他(具体的に: _____)		

※「会員」とは、貴団体の活動に定期的に参加しているメンバーのことを言います。

Ⅰ. 貴団体の活動の状況についておたずねします。

問1 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 市の広報紙 | 2 ホームページ |
| 3 社会福祉協議会の広報紙 | 4 メンバーなどによる ^{くち} 口コミ |
| 5 チラシやパンフレットの配付 | 6 特に発信していない |
| 7 その他(具体的に: _____) | |

問2 会員以外の方が気軽に参加できるような取り組みを行っていますか。

※「会員」とは、貴団体の活動に定期的に参加しているメンバーのことを言います。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------|
| 1 団体の活動内容の性質上、取り組みは不要 |
| 2 取り組み内容を検討しているが、特に行っていない |
| 3 取り組みを行っている(具体的に: _____) |
| 4 その他(具体的に: _____) |

問3 活動を行う上で、貴団体が課題だと感じていることや困っていることはありますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 費用がかかる | 2 リーダーや役員のなり手がいない |
| 3 活動の時間をつくりづらい | 4 人間関係が難しい |
| 5 適切な指導者や講師がいない | 6 活動の目標等の共有化が図りにくい |
| 7 適当な活動場所が近くにない | 8 必要な情報が得られない |
| 9 適当な活動場所を確保しづらい | 10 情報発信ができない |
| 11 成果を活かす場や機会が少ない | 12 新たな会員等の確保が難しい |
| 13 その他(_____) | 14 特に課題や困っていることはない |

問4 活動をしていく上で、貴団体はどのような支援を市に望みますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 財政的な支援 | 2 成果の発表の場への支援 |
| 3 活動場所の提供 | 4 会員募集の支援 |
| 5 団体や活動についてのPR | 6 活動上必要な情報の提供 |
| 7 他団体との交流の仲立ち | 8 リーダーの育成支援 |
| 9 団体運営上のアドバイス | 10 特にない |
| 11 その他(具体的に: _____) | |

※問3で「1」から「13」のいずれかを選んだ方にうかがいます。※「14」を選んだ方は問6へ

問5 問3で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。ご自由にお書きください。

--

II. 健康づくりについておたずねします。

問6 健康分野において、鴨川市では今後、どのようなことに力を入れていくことがよいと思いますか。
(○はいくつでも)

- 1 健康づくりに関する情報提供や、健康教室の開催
- 2 医師や保健師、管理栄養士などの専門家による指導や相談の場の増進
- 3 運動など健康づくりを实践できる場所や環境の提供
- 4 健康診査（健診）など、セルフチェックの機会の増進
- 5 健康まつりなど、健康づくりに関するイベントの開催
- 6 健康づくりに一緒に取り組む仲間・団体ボランティアなどの育成
- 7 地域での助け合い、支え合い活動による健康づくり
- 8 その他（具体的に：_____）

III. 貴団体から見た地域の状況についておたずねします。

問7 貴団体では、地域の他団体や会員以外の個人との交流がありますか。(○はいくつでも)

「他団体」と「個人」それぞれあてはまるものに○ →	他団体との交流	個人との交流
1 イベント等のお知らせ	1	1
2 イベント等の共催	2	2
3 会員募集やイベントなどのPR	3	3
4 場所を貸し借り	4	4
5 講師等の依頼	5	5
6 協賛・寄付	6	6
7 その他（具体的に：_____）	7	7
8 特になし	8	8

問8 貴団体では、地域での支え合いや、孤独死・生活困窮・虐待防止等のために必要な個人情報が提供されることとなった場合には、活用しますか。(○は1つだけ)

- 1 積極的に活用したい
- 2 必要に応じて活用したい
- 3 必要性をあまり感じない
- 4 個人情報を必要としない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に：_____）

問9 貴団体の活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。

以下の1～22の中から、最もお考えに近いものを3つ選んでください。

(○は3つ。特にないという方は「23」に○をつけてください。)

【健康づくり】
1 健康づくりに対する意識が低い
2 健康に関する不安や、老後の生活に関する不安を持っている方が多い
3 健康や福祉に関するサービスや情報について市民に知られていない
【地域のつながり】
4 福祉や地域の支え合いに対する理解や意識が低い
5 地域の中で気軽に集まれる場が少ない
6 隣近所との交流が少ない
7 世代間の交流が少ない
8 自治会などの地域の活動が不活発である
【子ども・子育て】
9 地域での子どもの安全の見守りがなされていない
10 子どもを取り巻く環境（インターネット・スマホ・ゲームなど）に関して不安がある
【社会問題】
11 子どもや高齢者、障害者に対する虐待を見たり聞いたりする
12 虐待が疑われる家庭があってもどのように対応したらいいかわからない
13 どこに相談すればいいのか、相談先がわからない
14 障害のある人に対する理解が不足している
15 生活困窮者※や、ひきこもりの方などへの支援が不十分
【高齢者】
16 1人暮らしの高齢者や高齢者のみなどの世帯への見守りや支援が必要と感じる
17 高齢者世帯（一人暮らし等）やその他支援が必要な方のなどの情報が手に入りにくい
【防犯・防災】
18 大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある
19 犯罪の増加や交通マナーの乱れが感じられる
【生活環境】
20 空き家対策や耕作放棄地、獣害、樹木の未伐採などの生活環境に不安がある
21 交通の便や、買い物・通院・行事参加などへの移動手段に関して不安がある
【その他】
22 その他（具体的に：_____）
23 特になし

※生活困窮者：現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人。
(生活困窮者自立支援法より)

問 10 貴団体の活動を通じて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。最もお考えに近いものを3つ選んでください。(○は3つ。特になしという方は「23」に○をつけてください。)

【健康づくり】
1 スポーツや文化教養活動の環境整備
2 健康づくりや医療などの健康で安心して暮らせる環境づくり
3 広報誌やホームページ、ガイドブック等を活用した情報の充実強化
【地域のつながり】
4 福祉教育や認知症サポーター養成講座等を通じた、ささえあい意識の醸成
5 地域の人が交流できる場の整備
6 サロン活動や地域交流イベントの支援
7 公園や緑地などの自然環境の整備
8 自治会・町内会などの自治組織等の整備
9 地域のネットワークづくり、見守り体制の整備
【支援やサービス】
10 認定こども園などの保育や子育て支援、教育の充実など、子育てしやすい環境づくり
11 支援を必要とする人への支援体制の整備
12 虐待、生活困窮をはじめ、健康福祉に関する総合相談窓口の周知啓発
13 日常生活に関する身近な相談窓口の整備
14 高齢者・障害者福祉の充実及び適切なサービスの安定的な提供
15 民生委員・児童委員をはじめとした関係機関等との連携強化による要支援者の適切な把握
【防犯・防災】
16 災害時における避難支援体制の整備
17 交通安全教育の徹底及び警察や地域防犯団体等との連携強化による安全・安心なまちづくり
18 空き家対策や道路整備など、安心して暮らせる生活環境の整備
【地域活性化・生活環境など】
19 道路や建物のバリアフリー整備
20 買い物・通院・行事などへの移動手段としての公共交通の整備
21 雇用の場の確保など地域活性化や定住促進の取り組み
22 その他（具体的に：_____）
23 特になし

Ⅳ. 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やアイデアがございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成 27 年度
鴨川市健康福祉推進計画の策定に係る関係団体
アンケート調査結果報告書

発行：平成 27 年 10 月
編集：鴨川市役所 福祉課・健康推進課
〒296-0033 千葉県鴨川市八色 887 番地 1
電話番号：04-7093-7111
ファックス番号：04-7093-7115
